

「専修学校フォーラム2017」 参加者アンケート結果

(平成29年2月6日、7日)

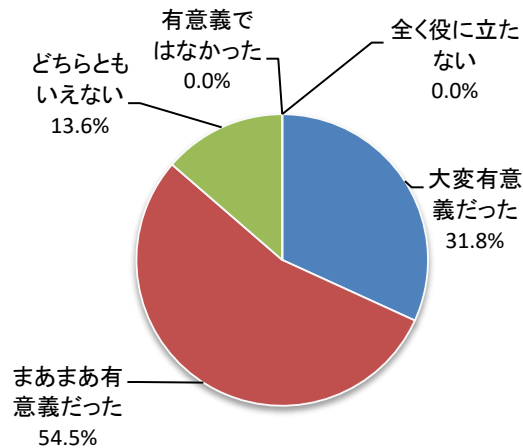
●参加者数: 120名
●回答者数: 30名
●回答率: 25%

一般社団法人全国専門学校情報教育協会

問1. 全体会について

1. 基調講演「社会の変化に大きな影響を与えるIT技術 ～過去から現在、そして近未来へ～」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	7	31.8%
まあまあ有意義だった	12	54.5%
どちらともいえない	3	13.6%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	22	100.0%

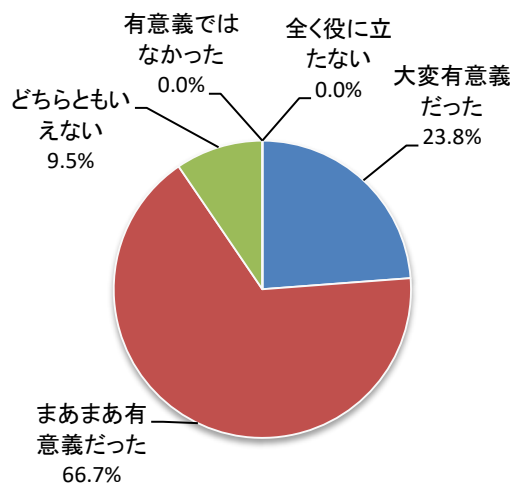


《 評価の理由 》

- ・FY2016とFY2017の国の意向の変化部分を理解できた。
- ・特に新しい情報や考えが示されたわけではなく、これまでに発表されたり報道されたことをまとめた内容だと感じた。
- ・AI基礎教育を早急に取り入れなくてはならない時期にきていることを痛感。
- ・IoTについてこれからの社会に与える影響の概要について知ることができた。
- ・手元に配布資料があればよいと思いました。
- ・もっと詳細な技術についての話を聞きたかった。
- ・時間を気にしている部分が印象強く、内容が理解できない部分があったため。
- ・コグニティブ・コンピューティングなど新しい知識について知ることができた。
- ・今後AIを活用したシステム構築の学習も視野に入れているため参考になった。
- ・ビデオを含めた説明が分かりやすかった。

2. パネルディスカッション「IoT社会に適応した人材育成と教育の在り方」

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	23.8%
まあまあ有意義だった	14	66.7%
どちらともいえない	2	9.5%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	21	100.0%

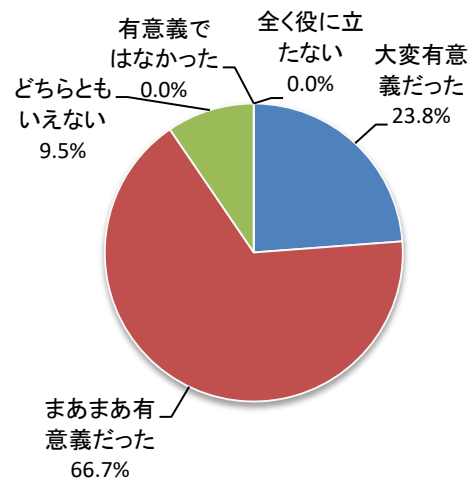


《 評価の理由 》

- ・今後のIoTを教えていきたい。
- ・IPA資料、日本電子専門学校 of 企画力養成の実証講座の事例
- ・IoTの今後の展開について知ることができた。
- ・既存の資料を説明するだけで「ディスカッション」なのでしょうか？
各パネラーの考えを提示しそれに対する「ディスカッション」を期待したのですが、残念でした。
日本電子専門学校の話は良かった。
- ・IT白書で見た内容が多く、もっと知らない話が聞きたかった。
- ・IT技術者の教育カリキュラムの見直しの必要性を痛感。
- ・基調講演の内容を現場サイドからの話を聞くことができた。
特に日本電子専門学校の取組みは大変参考になった。
- ・日本電子専門学校の事例が興味深かった。
- ・各パネラーの意見が大変良かった。今後もIoTに関して進めて欲しい。
- ・情報の学校ではないが人材育成のヒントはあったと思う。
- ・AI、ビックデータと併せて、IoTの学習の必要性を認識した。
- ・マイクロソフト株式会社の話が面白かった。
- ・IoT教材を検討しているため非常に役立った。

3. 「インターネット社会における職業人として適切な判断と行動ができる能力の評価・認定」
iBut ～インターネット・ベーシック・ユーザー・テスト～

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	5	23.8%
まあまあ有意義だった	14	66.7%
どちらともいえない	2	9.5%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	21	100.0%

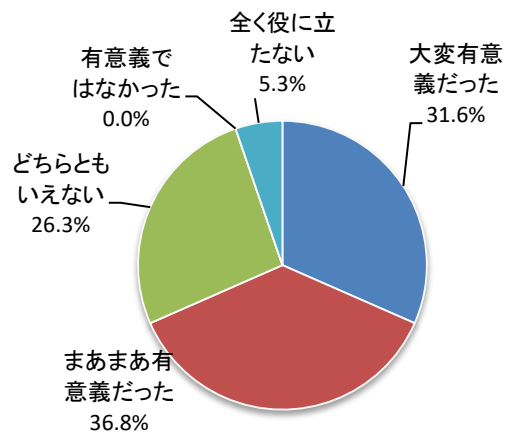


《 評価の理由 》

- ・iButを活用していきたい。
- ・内容的には良かった(参考になった。受験も実施したい。)
- ・実際に運用が開始され、社会から評価も高いことが分かったから。
- ・運用システムがしっかり構築されている。

4. IT分野の実践的な職業教育における企業内実習のためのガイドライン作成

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	6	31.6%
まあまあ有意義だった	7	36.8%
どちらともいえない	5	26.3%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	1	5.3%
計	19	100.0%

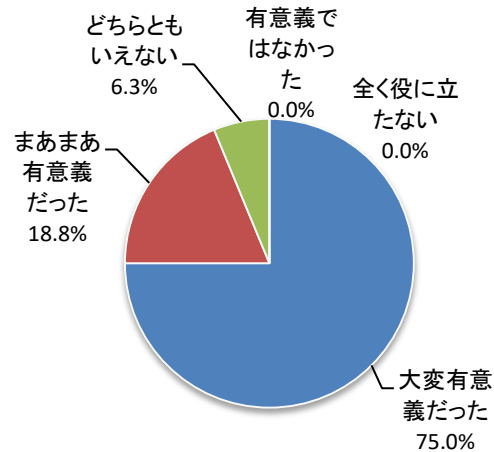


《 評価の理由 》

- ・インターンシップを考えていきたい。
- ・これからの詳細情報が発信されると思うので。
- ・H30に向けて研究がされる領域が分かったから。
- ・協会の意欲的な取組みが伝わってきた。
- ・独自にインターンシップを実施していたので、ガイドラインが完成した際にはぜひ利用させていただきたいと思います。

5. ビックデータに対応したIT技術者育成の教育プログラム整備と実証

5段階評価	回答数	%
大変有意義だった	12	75.0%
まあまあ有意義だった	3	18.8%
どちらともいえない	1	6.3%
有意義ではなかった	0	0.0%
全く役に立たない	0	0.0%
計	16	100.0%



《 評価の理由 》

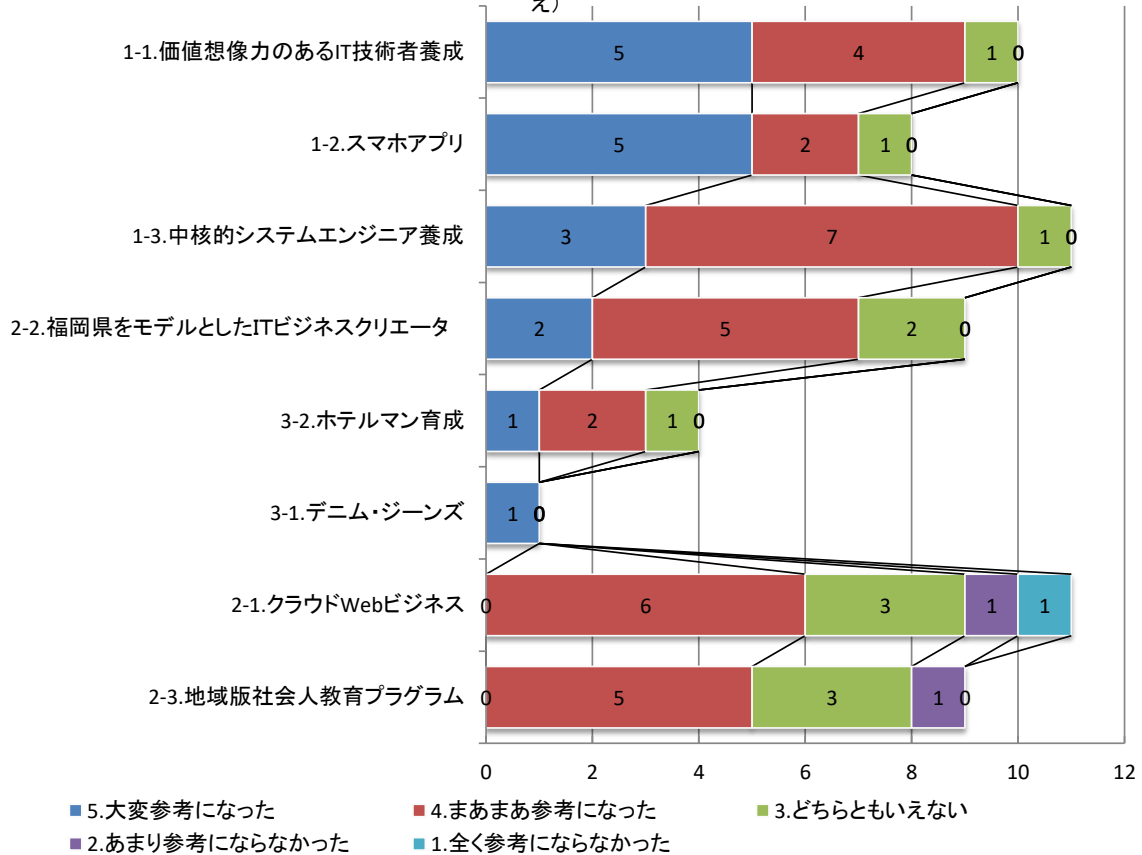
- ・学校で取り入れるようにしていきたい。
- ・ビックデータエンジニア人材育成にまつわる専門学校の現状とあるべき姿に対する仮説
- ・大変参考になりました。
- ・前半は概念的で総括的で参考にならなかったが、後半の具体例は参考になった。最後の話題は抜群に良かった。
- ・データエンジニアとデータサイエンティストの相違点がイメージできたから。
- ・奥の深さと可能性に感じさせられました。
- ・学生に現在、初等統計学として検定まで教えているが、この発表としてビックデータについて大変興味を持った。

問2. 文部科学省プロジェクトの成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表

(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(「大変参考になった」をキーに並べ替え)



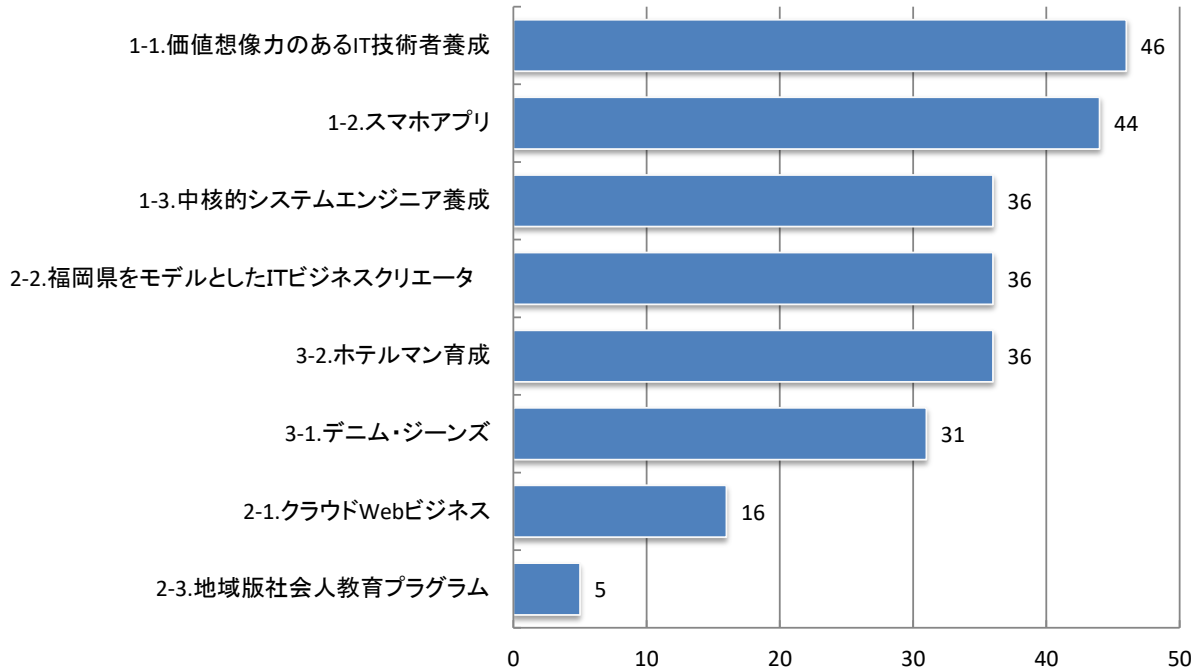
(「大変参考になった」をキーに並べ替え)

委託事業名	5. 大変参考になった	4. まあまあ参考になった	3. どちらともいえない	2. あまり参考にならなかった	1. 全く参考にならなかった
1-1. 価値想像力のあるIT技術者養成	5	4	1	0	0
1-2. スマホアプリ	5	2	1	0	0
1-3. 中核的システムエンジニア養成	3	7	1	0	0
2-2. 福岡県をモデルとしたITビジネスクリエータ	2	5	2	0	0
3-2. ホテルマン育成	1	2	1	0	0
3-1. デニム・ジーンズ	1	0	0	0	0
2-1. クラウドWebビジネス	0	6	3	1	1
2-3. 地域版社会人教育プログラム	0	5	3	1	0

問2. 文部科学省プロジェクト成果報告発表について

①自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表
(順位をポイント化した総合順位)

自身のスキルアップ、今後の学校運営の参考になった成果発表(順位をポイント化した総合順位)



(順位をポイント化した総合順位)

※ポイントとは→5.大変参考になった=5 4.まあまあ参考になった=4 3.どちらともいえない=3
2.あまり参考にならなかった=2 1.全く参考にならなかった=1

委託事業名	5.大変参考になった	4.まあまあ参考になった	3.どちらともいえない	2.あまり参考にならなかった	1.全く参考にならなかった	総合ポイント	総合順位
	(5p)	(4p)	(3p)	(2p)	(1p)		
1-1.価値想像力のあるIT技術者養成	15	28	3	0	0	46	1
1-2.スマホアプリ	25	16	3	0	0	44	2
1-3.中核的システムエンジニア養成	25	8	3	0	0	36	3
2-2.福岡県をモデルとしたITビジネスクリエイター	10	20	6	0	0	36	4
3-2.ホテルマン育成	0	24	9	2	1	36	5
3-1.デニム・ジーンズ	0	20	9	2	0	31	6
2-1.クラウドWebビジネス	5	8	3	0	0	16	7
2-3.地域版社会人教育プログラム	5	0	0	0	0	5	8

②参考になった、印象が強かった理由:

■1-1.

- ・IT技術者に不足しがちなビジネス的な考え方、分析の仕方などを体験させる方法として興味を持った。
具体的な企業などを題材としている点、ネットを活用して情報を得るところが特によかった。
- ・IT技術者に求められるニーズの変化の実態
- ・価値を想像できる人材育成は今後教育の中心になるが、これを具体的に教育に落としこむことの必要性を感じた。
その教育内容については様々な研究が行われているが、理論にとどまっておらず具体性が待たれる。
- ・教材の出来、ねらいが良いと思いました。

■1-2.

- ・AIの簡潔で分かりやすい解説

■1-3.

- ・お客さんの困りごとを聞いてかたちにする。
- ・社会にある資源と結びつけて新しい価値を作る。

■2-1.

- ・ネットワーク基礎学習の概要
- ・iButコンテンツの元ネタとなった研究であったため。

■2-2.

- ・発表内容が具体的だった。
- ・事業内容で元請けと下請けの比率

■2-3.

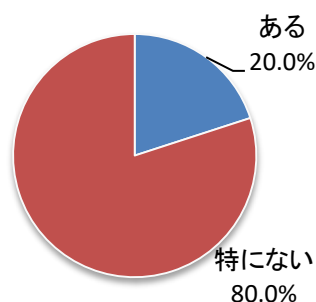
- ・教育コンテンツが大変ニーズに合った良いものであった。あとは教育運用の工夫が課題。
- ・Ruby推進を専門学校社会人教育に活用するために専門学校教員の技術習得が必要であると感じる。
委託事業が社会人対象の講習、研修であるが専門学校の教員の資質、技術向上のためには専門学校教員に対する研修が必要であるがそれが不可欠なのが残念に思える。

■3-2.

- ・地域企業のニーズが多い、観光立国という国の後押しもあるが、自校の英語力、インバウンド対策、英語力の問題が課題。

問3. 今後、文部科学省プロジェクト等で取り組みたい事業やテーマ

NO	回答	回答数	%
1	ある	6	25.0%
2	特にない	24	75.0%



■具体的な内容:

- ・デジタルクリエイティブ/コミュニケーション教育をeラーニング教材を以って行う際の「授業カリキュラム/シラバス/授業運営」の在り方という運用ノウハウに関する研究
- ・異業種交流による新事業の開発を通じたビジネスモデルの施策
- ・産学連携で開発し実際に活用している事例紹介
- ・留学生の日本語教育とIT教育の融合
- ・留学生の活用
- ・農業とIoTについて

■本会からの情報提供や連携校の紹介などのご希望がありましたら具体的にお知らせください。

- ・社会人の学び直しのコース(単位制、通信制、科目等履修)を保有される学校を紹介してほしい。
- ・留学生の活用情報

問4. 御校で課題となっている事項やお悩みの点、希望する研修テーマなど

- ・特定の企業から学科開設(産業企業連携)の申し出があり調査中です。よろしくご指導の程お願いいたします。
- ・教育過程編成委員会委員の新陳代謝
- ・留学生に対する教育が課題になっています。
- ・留学生の対応との日本語学校情報共有
- ・IoT教育の研修を希望

以上